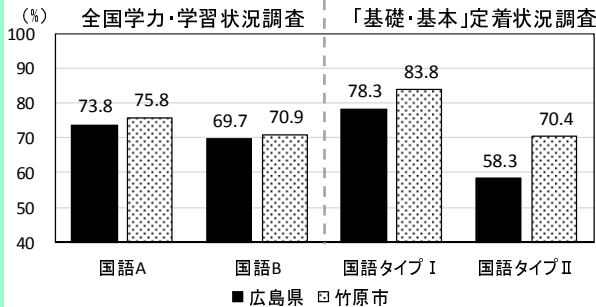


竹原市の取組

学力調査の結果における特徴～小学校国語を中心に～

H27学力調査の結果(小学校国語)



○学力調査の教科調査の結果について

- ・小学校国語の調査結果
- 全国学力・学習状況調査
 - 国語 A 75.8% (県平均 +2.0P)
 - B 70.9% (県平均 +1.2P)
- 「基礎・基本」定着状況調査
 - 国語タイプI 83.8% (県平均 +5.5P)
 - タイプII 70.4% (県平均 +12.1P)

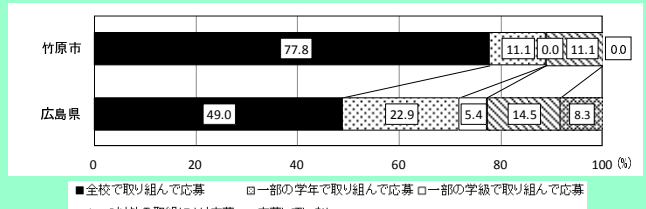
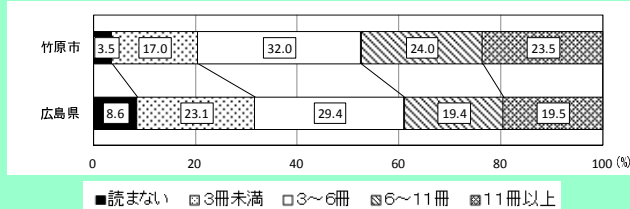
○児童質問紙調査, 学校質問紙調査の結果について

- ・「1か月に何冊くらい本を読んでいますか。」
- 「11冊以上」23.5% (県平均 +4.0P)
- 「読まない」3.5% (県平均 -5.1P)
- ・「学校外の読書感想文, 小論文等コンクールへ応募した。」
- 「全校で取り組んで応募」77.8% (県平均 +28.8P)

H27「基礎・基本」定着状況調査(児童質問紙調査, 学校質問紙調査)

1か月に何冊くらい本を読んでいますか。(教科書や問題集, 漫画, 雑誌はのぞきます。)

学校外の読書感想文, 小論文等コンクール(本や資料を活用した作品コンクールに限る)へ応募した。



竹原市教育委員会の取組

取組1 「ICT活用教育の推進」 一人1台のタブレット型端末

- 市主催のICT活用教育推進リーダー研修会
 - ・タブレット型端末, 電子黒板等を活用した授業づくり, 教材づくりについての研修
 - ・竹原市ICT活用教育ハンドブック作成

個に応じた資料活用

- 動画等の様々な資料を提示し, 児童生徒の学習の進度に応じた指導
- タブレット型端末上に課題を受信
- 自分の考えを書き込む
- 電子黒板へ送信し全体交流
- インターネット検索による調べ学習の充実
- 各教室でタブレット型端末を使った調べ学習が可能



自分の考えを書き込む



調べ学習

取組2 「小中一貫教育の推進」 中学校区の課題を9年間で解決

- 市内を4つの中学校区に分け, 中学校, 小学校教諭による連携教育の推進
 - ・教頭研修会, 研究・教務主任研修会で協議
 - ・学力面, 生徒指導面等の実態から児童生徒を9年間で育てる取組を協議・推進

9年間の一貫した指導

- 「基礎・基本」定着状況調査の結果を中学校区で分析し, 学習指導, 生徒指導等で一貫した指導に向けた協議
- 小中合同研修会, 他校種での乗入授業, 児童生徒の学校行事への参加等交流の促進
- 「竹原市子ども読書活動推進計画」を基に, 子ども司書, 委員会による読み語り等, 読書活動の充実



小・中教諭による協議の様子



小中合同運動会での宣誓

学校の取組

「授業改善とことばの基礎力の育成」 竹原市立荘野小学校

国語科の授業改善をはじめとして、各教科等の学習においても言語活動を充実させるとともに、言葉に慣れ親しむ様々な活動を日常的に行うことにより、学力向上を図っています。

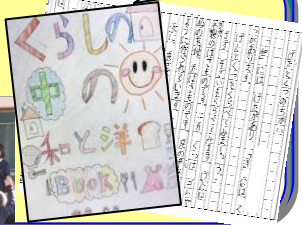
① 授業改善

国語科授業改善

単元を貫く言語活動を設定し、課題解決的な学習の単元を構成して指導を行う。

相手意識をもたせて…

単元のゴールとして
荘野っ子タイムでの発表を設定



単元のはじめに
ゴールをイメージさせて…

各教科等の授業における言語活動の充実 ICTの活用

電子黒板、タブレット型端末等のICT機器を効果的に活用することにより、視覚的な資料を用いて意見を交流することができた。



「算数用語を用いて」「教式・言葉・図・表等を関連付けながら」説明させたことで、深い学びにつながっている。

教科等の特質を踏まえて…

キャッチフレーズは
「ストロベリーミング」

② 言葉の基礎力の育成

学期ごとに明確な目標を掲げて…
目標達成 = 「達人」

めざせ 達人!!

「達人」の取組

音読達人

年間で9篇以上(学期に3篇以上)の詩や俳句、百人一首、古文を暗唱する。



毎日の感動を5・7・5に表し、「びっくり帳」に記す。

びっくり帳達人

読書達人

毎日続けて読書(家庭で)をする。(読書カードで記録)



チャレンジタイム

毎日5校時が始まる前に、チャレンジタイムを実施。詩・俳句・古文・漢文等をクラス全員でリズムに乗って暗唱。



作品応募

各種コンクール(「ことばの輝き」優秀作品コンクール、鈴木三重吉賞等)に積極的に応募。



「単元を貫く言語活動の推進」

竹原市立竹原西小学校

本校では、児童の書くことへの意欲向上に向けて、国語科の授業改善を行っています。

主体的な学びにつなげる4つのポイント

1 クロスカリキュラム開発

児童が、主体的に課題追究学習を行うために、つきたい力(単元の目標)を明確にした単元構想を工夫し、教科横断的に学習するカリキュラム(クロスカリキュラム)を開発する。

2 単元を貫く、学ぶ必然性のある言語活動の位置付け

単元の導入において、単元を貫く言語活動を設定して児童に提示することにより、明確に目的意識・相手意識をもたせる。

3 他者との交流場面の設定

児童が成就感や達成感をもてるよう、学び合い(交流や話し合い)の時間を明確に設定する。



4 つきたい力と関連させたモデル文の提示とワークシート(ノート)の活用

ワークシートやモデル文、手引き書の活用等により、文章の構成及び表現方法のイメージをもたせ、書くことへの抵抗をなくす工夫をする。



授業実践例(第4学年)

「とどけよう! 思いを手紙にこめて」
—教材文「お願いやお礼の手紙を書こう」を
活用して— (東京書籍)

【目指す児童の姿】

- 書くこととすることの中心を明確にし、目的や必要に応じた事柄を書くことができる児童
- 相手意識をもって依頼や感謝の手紙を書くことができる児童



その他の学習との有機的関連

